

禪宗の起源となる事「明けの明星（金星）」お釈迦様が覺りを開かれた時に明けの明星を見たという故事に由来する

お釈迦様は、六年間の苦行の末に苦行では悟りを開けないと悟り、菩提樹の下で「我、正覺を成ぜずんば、この座を立たじ」と決意して坐禪を組みました。そして十二月八日の明け方に、この「一見明星」を見たときに仏の悟りを開かれた。

曹洞宗では、お釈迦様が菩提樹下において明星を一見され、「大地有情非情同時成道山川草木悉皆成仏」とお言葉です。

道元禪師も「正法眼藏の谿声山色・古鏡・行持上・眼睛・發無上心・説心説性」等に、瑩山禪師は「傳光録」にあります。

明星を見て悟道して曰く。「我、大地有情と同時成道す」誰の言葉。「徳山慧遠禪師の法嗣廬山開先寺善暹（せんぜん）禪師」

苦の世界・・・欲望に振り回される。物質的追及。悟りの世界・・・安らぎの世界・精神的追及・安樂法門（坐禪）

世界の支配者としての魔王は、欲望や死、そしてこの世の輪廻転生を司る存在とされていきました。彼は、人々が苦しみの中に留まり、彼自身の支配下にあることを望んでいました。

釈尊が悟りを開くと、人々は苦しみから解放され、魔王の支配から抜け出す道を見つけることになります。これは魔王にとって、自身の権威と影響力が失われることを意味しました。

お釈迦さまは、菩提樹の下に座すと、「苦しみから逃れる方法を見出すまではこの座を離れません」と決意し、禪定（祈り）を深めます。すると、魔王がやってきて、

①娘たちによる誘惑・・・美しさの提示：欲望をかき立てる美しい娘たちを送り込みました。性の誘引：愛欲によって、修行を諦めさせようとした。

②魔軍による威嚇・・・恐怖の付与：恐ろしい魔軍を出現させ、釈尊を怖がらせようしました。修行の妨害：集中を乱し、精神的な動揺を引き起こそうしました。

③自身の内なる葛藤・・・疑念の喚起：これまでの修行が無駄ではないか、と疑わせるような囁きをしました。慢心や自己否定：悟りへの道を諦めさせるため、自尊心をくじいたり、慢心させたりしました。

魔王の役割・・・・・・・・①輪廻の維持 ②欲望の支配 ③覚醒への敵対

お釈迦様成道の役割・・・・・・・・①衆生を苦しみ留める ②誘惑で修行を妨げる ③悟りを阻む存在

釈尊が悟りを開くと、人々は苦しみから解放され、魔王の支配から抜け出す道を見つけることになります。

これは魔王にとって、自身の権威と影響力が失われることを意味しました。

現代に生きる魔王

魔王の誘惑は、単なる古い物語ではなく、現代社会を生きる私たちにとっても、心に深く響く教訓を含んでいます。形を変えて、私たちの日常生活の中に潜んでいるのです。

現代における誘惑の形

物質的欲望

消費主義・・・最新の流行や高価な商品を追い求める心。富の追求・・・際限なくお金を増やそうとする執着。これらの欲望は、一時的な満足しかもたらさず、本質的な幸福から遠ざけることがあります。

刺激的欲望

SNSやネットの過度な利用：他者と比較し、羨望や劣等感に囚われる。刺激的な情報に溺れ、内省の時間を失う。絶え間ない情報と刺激は、心を落ち着かせ、自分と向き合う機会を奪います。

◎物質的欲望に執着しすぎると、人間関係にも影響が出ることがあります。

◎真の豊かさへの目覚め

物質的な豊かさが悪いわけではありません。真の幸福や心の平和から遠ざかる可能性があります。

大切なのは、物質的なものと精神的なものバランスを見つけ、自分の内なる満足感や充足感を育む事です。

①喜心・・・体験を楽しむことで、大きな満足感に繋がります

②老心・・・感謝の気持ちを持つ、感謝の気持ちを書き留める習慣で、長期的に高い満足度を得る事ができます。

③大心・・・坐禪。現在の瞬間に意識を集中させる事で、日常の瞬間に幸福を感じる事が多くなる。安樂の法門